

令和5年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立橋本高等学校 校長名： 田中 克介

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- 幅広い知識と豊かな思考により、課題に対する適切な判断力と柔軟な対応力を身に付ける。また、自らの探究により獲得した情報を論理的に伝達する表現力と発信力を身に付ける。
- 自己の在り方生き方を考え、自ら学び続ける姿勢を身に付ける。
- グローバルな視点に立ち、他者を尊重する心を持ち、多様な人と取り組む協働性と実践的なコミュニケーション能力を身に付ける。

学校評価の公表方法

ホームページを利用して公表する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

学校関係者評価（12月22日実施）

番号	計画・取組			評価（3月22日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	一人ひとりの能力や進路希望に応じた指導が行えるよう、教職員が共通理解をもって生徒の指導を行うとともに、確かな学力の定着を図るため、自ら考え、自ら学ぶ学習態度が身につけられるよう授業改善を行う。	B	ICTを効果的に活用するとともに、主体的な学びの実現に向けた授業改善に取り組む。	興味関心を高める工夫と学習活動の振り返りを図る授業改善ができたか。	B	ICT機器の活用を促し、主体的な学びの実現に向けた授業改善に取り組む教員が増加してきている。	ICT機器の有効な活用方法の促進を進めているが十分ではないため、引き続き検討が必要である。また、普通科改革支援事業を軸に、生徒同士が協働し、コミュニケーション能力を高めていく効果的な指導を目指す。
			普通科改革支援事業を軸に、グループでの探究活動やプレゼンテーションを重視した学習活動に取り組む。	生徒が協働して取り組み、成果を挙げる事ができたか。	A	対話し協働して取り組む機会が増え、プレゼンテーション能力の向上も見られた。	
			教員の指導力向上を目指し、校内研修、授業研究、校内公開授業、を実施する。	効果的な校内研修を数回、公開授業を全教員が年1回以上実施できたか。	B	校長が講師となり、若手教員研修を開催した。校内公開授業を大半の教員が年1回実施できた。	
2	コミュニティスクールとして、地域と連携した活動を積極的に取り入れ、国際理解教育やふるさと教育、SDGs等の系統的な学習活動に取り組み、生徒の実践力を向上させる。	B	SDGsの目標に沿った様々な活動に積極的に参加する機会を充実させ、課題解決型学習を行う。	自ら課題を発見し、SDGsの目標を達成するための方法を考え表現できたか。	A	SDGsの目標と照らし合わせて、課題を模索・選択し、テーマについて探究するための授業を実践できた。	普通科改革支援事業を活用し、身の回りの課題をSDGsと関連づけて考える機会を設定し、探究することができた。今後は、生徒が主体となって設定テーマを深めることができるよう教員の伴走方法の研究を進める必要がある。ボランティア活動の場を積極的に広報し、参加を促していきたい。
			ユネスコスクールとして、海外の高校生との交流を通じてグローバルな視野を育成する。	海外の高校生との交流活動等に取り組み、学習テーマを深めることができたか。	A	普通科改革支援事業も含めて、県外、海外の高校生との交流活動等の機会を増やすことができた。	
			地域活動・ボランティア活動に積極的に参加する機会を充実させる。	生徒が積極的に参加することができたか。	B	ボランティア活動に多くの生徒が取り組めた。	
3	他府県の高校生、大学・企業等の関係機関と意見交換を行い、プレゼンテーション能力の向上を図るとともに、海外の高校生と交流等を行うことで、国際的なコミュニケーション能力を高める。	B	探究活動を軸に教科横断的な学習に取り組む、課題を見だし、校外との意見交換やプレゼンテーションを行う機会を充実させる。	校外との意見交換やプレゼンテーションの機会を何度持つことができたか。	B	探究学習において、地域の小学校をはじめ、校外との意見交換やプレゼンテーションの機会を増やすことができた。	普通科改革支援事業もあり、海外ではフィンランド等、国内では北海道の高等学校との意見交換やプレゼンテーションの機会を複数回持つことができた。次年度は、教科横断的な学習の取り組みを充実させたい。
			校内、国内での実践発表を繰り返した上で、海外との交流等を実施する。	海外との交流等の機会を複数回持つことができたか。	A	フィンランド、台湾、マレーシア、オーストラリアとの交流等の機会をそれぞれ持つことができた。	

・忙しい毎日でしたが、とても充実した高校生活を送ることができたようです。ありがとうございました。

・学校に立ち寄る機会がないので、アンケートの回答に困りました。毎日、学校であったことの話を開かせてくれます。他の周りの生徒が良くできる中で、すすむスピードが速く、たくさんの課題があつて「しんどい」とよく言っています。しかし、それも試練であつて、自治と自由を目指す教育がなされているように感じています。健康で楽しみながら有意義な学校生活であつてほしいと願っています。

・本校の特色である探究活動を支える先生方のご苦勞は大変だと思いますが、こんな風に発展してきていることを誇らしくも思います。常に先生方の研修も積んでいただき、どの生徒さんにも公平に学ぶ機会が保障されますことを願います。と同時に、探究する姿勢をより発展的にするために、小中学校での総合学習の充実が大事ではないかと感じています。課題の見つけ方に始まり、探究方法を考えたり、実際に行動していく中で、より深く、より広く、より向上できるためには、それまでの積み上げがあることが望ましいと思います。小学校ではある程度総合学習を含めた授業で主体的な学びに取り組まれているように思います。古佐中では楽しい自分たちで取り組む姿を授業の中で参観させてもらったこともあります。現状、そのあたりが乏しい中学校に向けて、「そんな授業をそんな生徒を橋高は求めています！」というように中学校に向けたメッセージを発信してもらうことはできないのでしょうか？小学校、中学校で、探究のミニ版を体験した上で、橋高での実践！となると素晴らしい生徒さんたちの成長を観れるのではないかとおもいました。希望します。